千葉明徳短期大学　育ちあいのひろば

たいむ

9月号　【H25.8.　発行】

８月22日からたいむが再びスタートしました！

久しぶりに会った子どもたちは夏休み前に比べ、とてもお兄さん、お姉さんになったように感じます。真っ黒に日に焼けた子、ちょっぴり身長が伸びた子、髪の毛が伸びた子、歩けるようになった子…。

毎日一緒にいると気づかないこともちょっと離れると変化に気付くものですね！
私はこのような子どもたちの成長を側でみることができるのはとても嬉しいことだと感じました。お母さんたちの中には出産を終えて、久しぶりにたいむにいらした方もいました。お互い、出産までの話や出産してからの話をして「これから(二人目が生まれて)大丈夫かな」と心配になったり、「やっぱり陣痛は痛い！」と経験者だからわかる話で盛り上がっていました。そんな中で子どもの成長・子育ての中での疑問や悩みを共有し合ったり、情報交換をし合う姿が印象的でした。一人で悩まず、声をかけ合うのは素敵だと思いました。(の)

■ 流しそうめんをしました■

「今年は流しそうめんはやらないんですか？」という保護者の声を受け、８月６日、23日にたいむで流しそうめんをしました。

流しそうめんで使う竹は先月のおたよりにも書いたように、おゆみ野の森を守る会さんよりいただきました。そして、短大伊藤先生とゼミ生たちが金づちや電動やすりを使い、３時間かけて節を割ったり、削ったりしてくれました。

６日は、天気がちょっぴり怪しい感じでした。準備をしていると雨が降ってきてしまい、今日はできないかな…と思っていると雨がやみました。「よし！やろう！！」急いで準備をし、いざ開始！！

子どもたちは流れてくるそうめんやゼリー、みかんをつかもうと必死でした。ゼリーやみかんが自分の前を通過してしまうと「あぁ・・・」とため息。しかし、落ち込んでなんかいられず、すぐに気を取り直してまた挑戦！上手に取れたときの表情はとても嬉しそうでした。そうめんがなくなると同時に降ってきた雨。

お天気も味方してくれ、流しそうめんをしているところを見守ってくれていたのでしょう。

23 日は水遊びと並行して行いました。流しそうめんよりプールに行ってしまうのではないかと思いましたがいつも見ているプールより用意されている長い竹のほうが珍しかったようで「つるつるたべる～！」と嬉しそうにしていました。

そうめんやゼリー、みかん流れてくると箸を上手に使ってつかむＹちゃん。お箸の使い方も上手でしたが、Ｙちゃんの食欲にもみんなびっくりしました。ほとんどの子がお腹いっぱいになって水遊びをしている中、「すいませ～ん、もっと流してくだ さ～い」「流れてきませ～ん」「まだですか～？」と止まらない食欲にお母さんも驚いていました。お箸が上手に使えること、いつもと違う流しそうめんということでおいしく感じ、止まらなくなったのかもしれませんね！ちなみにＹちゃん…お昼に余ってしまった麺をおやつの時間にも食べていたのはここだけの内緒の話ですよ！

今回の流しそうめんを楽しく、おいしくできたのはおゆみ野の森を守る会の方、伊藤先生、ゼミ生のみなさんが暑い中、竹を用意してくださり、その竹をお借りすることができたからだと思います。この楽しかった思いはもちろん、用意してくださった方への感謝の気持ちを忘れずにいれたらいいなと思いました。また、みんなで楽しめる企画をやりたいと思います。(の)

■ らくがきコーナー誕生■

たいむのお部屋から少し離れた廊下の奥にらくがきコーナーができました。以前、授乳コーナーで使用していた目隠しに魔法の絵の具“チョークボードペイント”で色をつけました（この塗料で木材を塗ると黒板に変身してしまうのです！）。

塗料を塗る時には、「なにやってるのー？」と、気になる子どもたち…。なんだか楽しそうなので、この後一緒に塗りました！（Ｎくん、Ｓくんにとって、人生初のペンキ塗りでした）

そんな変身した目隠しにチョークで絵を描いてみると…子どもたちはチョークというものがとても新鮮なようで普段、絵を描かない子も嬉しそうに描いています。（の）

初日、黒板消しでどのくらい消せるかと、たいむの終わる時間に消しに行くと、Ｙちゃんがついてきました。私が何気なく消しだすと、Ｙちゃんは「なんでせっかくかいたのにけしちゃうの？」と言いました。私はハッとして、「そうだよね。ごめんね。次に描く人が消せばいいよね」と手を止めて伝えました。私には「消して書きなおせる」ものでしたが、

子どもにとっては「私が描いたもの＝作品」だったのですね。その日の絵は、そのまま残しておきました。Ｙちゃんも心配だったからついてきたのかもしれませんね。（い）

■自分の思いを伝える■

Ｓくんはたいむにある“お手玉”が大好き。この日も大好きなお手玉で遊び、その後、仮面ライダーやレンジャーの人形を机の上に並べて遊んでいました。

大人が並べるのにもうまくバランスを取らないと倒れてしまうのですが、それをＳくんはとても上手に並べることができます。その時の集中力はすばらしく、それをスタッフも横で見守っていました。するとそこへ妹のＮちゃんがやってきてせっかく並べた人形をバン！バン！と次々に倒してしまいました。そのとき、私は「あ、倒れてしまった…」と思ったのですが、あえて声をかけずにいました。Ｎちゃんは悪気がなく、お兄ちゃんがやっていることが気になって、そばに行って触ったら倒れてしまった。この後、どうなるのか見守っていました。

Ｓくんの気持ちになれば、一生懸命並べたものが倒れてしまい、悔しいはずです。すると、ＳくんはＮちゃんに向かって怒りました。以前のＳくんだったら怒ることなく、また黙って並べ直していたと思います。しかし、今回、悔しい気持ちをＮちゃんにぶつけているところを見て、反対に私はすごく嬉しい気持ちになりました。

幼い子どもにとっては、自分で自分の気持ちを相手に伝えるということは当たり前のことのようで、なかなかできません。伝え方も簡単なようで難しいことだと私は思います(むしろ大人のほうができなかったりするかもしれません)

私の息子(10か月)も小さいながらに自分が嫌なこと、楽しいことを言葉ではないけれど、泣いたり笑ったりして相手にわかってもらえるように伝えてきます。そしてこの先、言葉が話せるようになると、ただ泣くだけではなく「いやだ」と自分の思いを伝えてくるのだろうと思います。時には大人が間に入って、お互いの気持ちを聞くことも必要なこともありますが、私は子どもが自分の言葉で自分の気持ちを伝えることはとても大切なことだと思います。その中で相手のことも考えられるようになっていけたらいいと思います。私自身も子どもたちを見守りながら、子どもたちが自分の気持ちが言えるようにお手伝いができたらいいと思いました。(の)